



## 東京学芸大学 養護教育講座

### シンポジウム「いのちの大切さを考える教育」

東京学芸大学 養護教育講座では毎年、ゲストをお招きして「いのちの大切さを考える教育」というテーマのシンポジウムを開催しています。今年度は6回目となり、益々充実した内容となっています。

今回のテーマは、「外国につながる子どもたちのこころと体のケアを考える」です。

多様な支援ニーズや困り感の背景、養護教諭と連携した事例を基に考えます。

#### シンポジウムの趣旨

これから教員になろうとする学生、現在、教諭あるいは養護教諭である者にとって、人間の生命や生と死について、子どもたちにどのように教育するかは、重要な課題になっています。保護者やいろいろな場で子どもにかかわる大人や一般の方々の関心も高いと思われます。

そこで、人間、とくに子どもたちのいのちや生死に関わって仕事をされている方から、「いのちの大切さを伝える教育」についてのお話を伺い、まず大人である私たち自身がこのことを深く考えるきっかけや教育・学習を行ううえでのヒントを得たいと思っています。シンポジストによるご講演を拝聴いただいた後、自由な意見交換を企画しています。

シンポジウムは以下の日程で行います。「いのちの教育」に興味のある、学生、教諭、養護教諭や一般の方々の参加をお待ちしております。是非ともご参加ください。参加費は無料です。

2月22日(土) 13時～16時 東京学芸大学 S103 教室

#### シンポジスト

李原翔 さん： 外国人教育相談サポーター

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程に在学中。学業のかたわら、都立富士森高校通訳、神奈川あーすぶらざ外国人教育相談サポーター、多文化フリースクールよこはま生徒相談、東京大学国際センター相談員、子どもの中国語教室のボランティアとして、いろいろな現場で外国につながる人々の教育支援に関わっておられます。

平塚淑江さん： 国際教育コーディネーター/スクールガイドアドバイザー

主にスペイン語圏の外国につながるの児童生徒のため、国際教育コーディネーターとして横須賀市内の小中学校に転入する日本語指導を必要とする子どもたちの支援ニーズのアセスメントや保護者ガイダンス、学校や保護者への情報提供や助言、外部機関との連携を担ってこられました。現在米軍基地に近い市立中で、養護教諭が支援教育コーディネーターとして日本語指導だけでは対応しきれない、子どもたちの課題解決のためのキーパーソン、神奈川あーすぶらざ外国人教育相談サポーター、として活躍されています。

#### コメンテーター

中下富子先生：埼玉大学教育学部教授

ブラジルのサンパウロ大学で研究されるなど、日系ブラジル人の子どもたちの問題に取り組んでおられます。李さんと平塚さんのお話を踏まえ、グローバル化する社会において日本の学校や養護教諭が、多文化とヘルスケアの問題にどのように取り組んでいくのか、コメントして頂きます。

主催：東京学芸大学 養護教育講座 朝倉 隆司、竹鼻 ゆかり

問い合わせ先：東京学芸大学 養護教育講座 竹鼻 ゆかり

東京都小金井市貫井北町4-1-1

e-mail: takehana@u-gakugei.ac.jp

電話 042-329-7638

